

# 平成19年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	短期集中型合宿訓練を取入れた若年者自立支援プログラムの開発		
法人名	学校法人友幸学園		
学校名	専門学校九州テクノカレッジ		
代表者	理事長 田所 徹夫	担当者 連絡先	教務主任 藤 久士 TEL 093-561-3914

## 1. 事業の概要

なんらかの理由でニートになっている或いはニートになる可能性のある若年者に対して専修学校とNPO法人福岡県キャリアコンサルタント協会さらに高等学校や地域のサポート校（通信制高校に在籍する生徒に対して単位取得や進級・卒業などに必要とされる支援を行う民間の教育施設）等が連携して若年者の再教育を行い、様々な体験を通して社会性と職業意識を身につけさせ自立への芽生えを促すと同時に若年者の保護者に対してニートにさせない意識付けを行い総合的に若年者を自立支援していく事業である。

## 2. 事業の評価に関する項目

### ①目的・重点事項の達成状況

#### ●若年者支援

規則正しい生活習慣の確立や社会で働くためのコミュニケーション能力、仕事をするうえで必要となるビジネススキル（Word・Excel）を習得させることができた。

#### ●保護者支援

健全な親子関係を構築するための若年者理解の実証講座を展開することができた。なかでも、福岡教育大学保健管理センター所長 宮田 正和 教授のメンタルサポートや天台宗普光寺 池田 智鏡住職の講話は保護者に好評であった。

#### ●労働体験・農業体験

農業体験、労働体験では労働の大切さを経験し、他者と関わりながら社会で生活することの充実感を体験することができた。

#### ●短期集中型合宿訓練の実施

短期集中型合宿訓練は初め若年者のほとんどがあまり乗り気では無かった。あまり面識の無い人と2泊3日の合宿で集団行動をすることに対して不安と緊張でいっぱい様子であった。しかし、合宿の始めに参加者全員の前で自己紹介を始めた時から雰囲気が変わった。参加者それぞれが比較的自分の事について多くを語った。彼らは自らを他者に理解して欲しい、他者と関わりたいという欲求が爆発したかのようだった。

その後、若年者と保護者が分れてのプログラムに移り若年者は力を合わせてカレーライスを作った。普段は料理をしたことがない者がほとんどであり、毎日保護者が自分たちに料理を作ってくれることに対して感謝しなければいけないという感想が多くあった。

2日目の登山は若年者にとって最も参加したくないプログラムのようなようだった。米の山（596m）は標高こそそれほど高くないが途中は車も通れないような急峻な登山道が続く。私たち引率者は彼らが頂上に登りきることができるか心配したが、一人の落伍者も無かった。集団で登山をする場合ペースが速いものもあれば遅いものもある。若年者の多くは普段の生活を自分のペースでおくっているが（夜遅くまでゲームをしたり、朝は昼まで寝ていたり）この登山を通して他者をいたわり、他者を認めて助け合うことの大切さを実感したという感想をもった者が多かった。

また、3日目の若年者のグループディスカッションは若年者が本音で話をすることが意義深い。それはこの実証講座と短期集中型合宿訓練の様々なプログラムで周りの者と信頼関係を築く事ができたからであろう。ディスカッションの中で彼らの多くがニートは良くないことであると発言した（2名は初めニート肯定派であった）。どのようにしてニートから脱却すればよいのか、若年者の考える保護者との関係、彼らの将来について等を包み隠さずにディスカッションが展開された。

このように、短期集中型合宿訓練を通して参加者（特に若年者）は大きく成長したという印象をもっている。また、そのことはその後の実証講座に対する姿勢にも現れている。保護者からは親子の会話が増えたとか、子どもの心の中が少し分ったなどというご意見を頂戴した。若年者からは人と関わることがこんなに楽しいと思ったのは久しぶりだとか、登山の体験から自分もやればできると自信をもったという感想が多く寄せられた。

## ●キャリアカウンセリング

礒部社会保険労務士事務所所長キャリアコンサルタント 礒部 光隆 (自立支援分科会委員)

北九州市戸畑保護区保護司会理事 久保田 澄 (自立支援分科会委員)

若年者Aグループ・Bグループ(計11名)に各3回キャリアカウンセリングを実施

まだ自己理解ができていない若年者にとってキャリア開発支援は自立をしていくうえで非常に重要になっている。実際に参加した若年者と接してみて「やりたい仕事が見つからない」、「自分に向いている仕事が見つからない」、「仕事に対してやりがいを見つけられない」といった意見をよく耳にした。職業観・仕事観の未熟さと自己理解が進んでいないことに自立できない理由を抱えているニート状態の若年者は多いようだ。確かに学校教育においてもキャリアコンサルティングやキャリアカウンセリングが取り入れられたのは比較的最近のことで家庭においても外的キャリア(高校や大学のランク、会社の大小など)に基づいて子どもの進路を勧めていたのではないだろうか。

今回のキャリアコンサルティングは様々なキャリアシートを用いて、若年者自身が職業や人生、自分の内的キャリアを自己理解できるよう構成されています。このキャリアシートを活用して若年者の自立に寄与できた。

キャリアカウンセリングシートを用いて自己認識・職業観・将来像の気づきの機会となった。

キャリアカウンセリングと共に行った進路相談・進路支援の成果もあり11名中9名が進学就職したことは大きな成果であった。

## ●進路の決定

ニート状態にあった若年者が進路を決め自立への第一歩を踏み出すことができた。

## ●自立支援プログラム開発

若年者をニートから脱却させると共に若年者とその保護者に対してニートにならない、させないための総合的・体験的な自立支援プログラムを開発することができた。

### ②事業により得られた成果

若年者が社会に対してまた職業に対して興味関心をもつように様々な体験を通じてコミュニケーション能力を身につけさせ、自立した生活習慣を確立させるプログラム内容を開発した。具体的にはキャリアコンサルタントによるキャリアカウンセリングと共に受講者相互のグループワーク、自ら課題を設定し自らの力で課題を解決させて物事を達成する喜びと責任を実感させることができた。若年者に対して自立に向けての基本的事項を総合的・体験的に実践することができた。また、若年者だけでなく、保護者も参加できる短期(3日間)集中型合宿訓練を行い、若年者とともに保護者もニートにならない、させない意識付けをしたを行うことが出来た。

### ③今後の活用

本事業で開発した若年者自立支援プログラムテキスト(保護者用・若年者用)を全国の教育機関と若年者自立支援を行っているNPO団体等に配布し若年者自立支援に役立てる。

### ④次年度以降における課題・展開

講座を進める過程で保護者が若年者に対しての接し方に悩んでいる場面に何度となく出くわした。また、保護者自身が対人コミュニケーション能力が成熟していなかったり、家庭教育力を身につけていないと思われることもあった。

若年者の自立は若年者と保護者の理解と協力があって始めて達成できるのではないだろうか。今回の実証講座はどちらかといえば若年者側に重点を置いて展開したが、保護者の「子育て力」をもっと高める必要を感じ、本年度の実証講座を踏まえた、保護者支援プログラムの作成が今後の課題ではないだろうか。

## 3. 事業の実施に関する項目

### ●若年者実証講座

Aグループ(8月20日~11月27日)	Bグループ(9月12日~12月20日)			
コミュニケーション能力の習得	全 6回	Aグループ8名	Bグループ9名	
労働体験・社会見学	全 6回	Aグループ8名	Bグループ8名	
ビジネススキル習得	全15回	Aグループ7名	Bグループ7名	
キャリアコンサルティング・進路支援	全 3回	Aグループ6名	Bグループ5名	



農業体験



労働体験



ビジネススキル習得

●保護者実証講座

Aグループ（9月29日～12月9日） Bグループ（10月13日～12月9日）

専門家による子ども理解について（子ども個性と社会性）

全1回

Aグループ8名

Bグループ8名

青年心理学・教育心理学コーチングスキル

全1回

Aグループ7名

Bグループ8名

親として子どもとどう関わるかについて

全2回

Aグループ5名

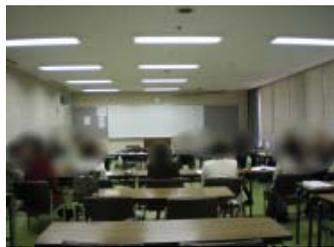
Bグループ6名

保護者のディスカッションと講話

全1回

Aグループ5名

Bグループ5名



専門家による子ども理解



親として子どもとどうかかわるか



子育てについての講話

●短期集中型合宿訓練若年者・保護者

1日目 若年者16名

保護者15名

2日目 若年者16名

保護者15名

3日目 若年者16名

保護者15名

自己紹介、バスケットボール、社会自立講座、野外炊飯他  
米の山（596m）登山、キャンドルの集い他  
グループディスカッション他



自己紹介



バスケットボール



社会自立講座



野外炊飯



登山



キャンドルの集い

#### 合宿の感想

(若年者)

合宿では普段と違い、早寝、早起き、三度の食事をするという事が、良い事だと改めて感じる事が出来たことが一番の収穫だったと思う。

いつもは食事が一日一回で、朝方の4時に寝て、昼の12時に起きるという不規則な生活を送っています。しかし、この合宿で規則正しい生活を再確認し、自分の乱れた生活を見直す事が出来て良かったと思います。

合宿では自分自身で学ぶ事を見つけ、みんなで協力し合えたことがとてもよい経験になりました。この経験を自立に活かしていこうと思います。本当に今回の短期の合宿は自分にとっては、貴重な経験になったと思っています。

(保護者)

2泊3日の集団生活がはたして、子どもにとって良い方にでるのだろうかと思ってましたが、親の目から見ると、確実に成長したように思えます。

子どもの口から感謝のことが聞けることが、増えたような気がします。

#### ④その他

今まで若年者だけが参加する3ヶ月程度の合宿訓練は若者自立塾などで実施されてきたが、しかし、保護者からの要望があったにも関わらずこれまで実施されていなかった若年者と保護者の両方が参加する短期集中型合宿訓練を中心に体験的・実践的若年者自立支援講座を実施した。

事業計画当初は本講座の早い段階で短期集中型合宿訓練を実施する予定であったが、第1回実施委員会において短期合宿訓練の前に若年者にコミュニケーション能力の習得と生活習慣の改善を行った方が短期集中型合宿訓練の効果が大きいという結論に到った。

また、実証講座は保護者・若年者それぞれをAグループ・Bグループに分けて開始したが短期集中型合宿訓練では両グループが影響しあうほうが高い効果が期待されたため両グループ合同で短期集中型合宿訓練を実施した。